



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

安全で安心できるインプラント治療

インプラントセンター センター長 尾関 雅彦

昨年1月に放映されたテレビ番組において、インプラントは危険なので安易に治療を受けないほうがよいとの内容が日本全国に伝えられました。この番組では、インプラント手術にともなった死亡事故、副鼻腔(上顎洞)へのインプラント迷入、さらには下口唇のマヒといった3つの重大事故が伝えられ、ご覧になった患者さんはインプラントがこんなにも危険なのかと戸惑われたと思います。

しかしながら番組の中では重大事故の発生が伝えられただけで、事故を生じさせない対策と、万一に事故が起きた場合でも、事故による有害なことを最小限にいとめる適切な対応策が報じられませんでした。番組内で取り上げていた3つの重大事故は、いずれも事故発生直後に迅速で適切な対応をしていれば、患者さんに不快症状を残すことなく治療できていたと推測します。

インプラント治療は繊細な外科手術を伴うことから、経験不足や未熟な技術の歯科医師が安易に行えば、事故が起きる可能性も否定できません。しかしながら事故を起こさない予防策と、もしも事故が発生しても、事故を重大事故としない万全の対応策が備わっていれば、インプラント治療は決して危険なものではありません。

昭和大学歯科病院インプラントセンターではインプラント治療の事故を防止する予防策として、経験豊富な多数の専門医がインプラント治療に関わる仕組みを取り入れています。当センターではインプラント治療を専門とするインプラント歯科に加えて、歯科放射線科、歯科麻酔科、口腔外科、補綴歯科、高齢者歯科および歯周病科など、多数の歯科専門領域から選ばれた歯科医師がインプラントセンター登録医としてインプラント治療に携わっています。

インプラントを顎の骨に植え込む手術の前には必ず術前カンファランス(症例検討会)を開き、翌週に予定しているすべての手術を多数の登録医が検討することで、最善の治療法を選択するとともに、担当医が注意点を見落とすことがないように、事前にチェックする管理体制が充実しています。

インプラントの植え込み手術は消毒滅菌設備が整っている中央手術室で行い、執刀医と介助者のほかに、歯科麻酔医や看護師など多数のスタッフが一人の患者さんの手術に携わります。麻酔医が患者さんの苦痛を緩和しながら全身状態を管理することで、執刀医は口腔内の手術に集中することができ、また看護師が患者さんの心身の介護をすることで、患者さんはインプラント手術を安全に安心して受けることができます。さらに万一、手術中に偶発的なことが生じたとしても、あらゆる緊急事態に対しての対応策を準備していますので、重大事故となる前に速やかに解決致します。

インプラントセンターで治療された患者さんの殆どがインプラント治療を受けてよかったと、とても満足されています。インプラント治療をご希望される方は、インプラントセンター外来(3階)にお気軽にお越し下さい。

また患者さんや地域の住民の方を対象としたインプラント説明会(予約不要、無料)を、毎月第4火曜日のお昼休みに歯科病院臨床講堂(6階)で開催しています。インプラントに興味のある方は、どうかご自由にご参加下さい。



インプラント歯科 紹介

昨年4月にインプラント歯科学講座が歯学部の新設されたのを機に、歯科病院インプラントセンターの運営を行うとともに、いつも安全、安心で快適なインプラント治療が行われるように努力しています。

当科には1本だけ歯を失った方から歯が全部抜けた方、あるいは顎の骨を切除して入れ歯が安定しない方など、いろいろな患者さんが受診されます。また最近、他の歯科診療施設でインプラント治療を受けた後に、さまざまな理由で当科に相談を求める患者さんも増えています。当科で治療を御希望される患者さんにインプラント治療を行い、少しでも喜んで頂きたいと思っています。

今日では歯が抜けた顎の骨に埋め込んだインプラントに、人工的な歯を連結して歯の形を修復するインプラント治療が広く行われるようになってきました。とくに当科で行っているインプラント治療の特徴的なことを、4つ御紹介させていただきます。

1. 患者さんに優しい低侵襲のインプラント: 顎骨の高さや幅がない患者さんに対して、手術の侵襲を小さくするために、骨の移植を行うことなくインプラントを埋入し、審美的に修復する治療を得意としています。骨移植を伴う外科侵襲の大きな治療と比べて、術後の腫れや痛みが軽いので患者さんに非常に喜ばれ、“患者さんに優しいインプラント治療”と言われる。

2. 患者さんに合ったインプラントの選択: 顎骨の状態や噛み合わせ、あるいは審美的に修復することやすぐに白い歯に修復する必要がある場合など、患者さんのさまざまな状況に合わせて、多数のインプラントメーカーの中から最適なインプラントを使用しています。開発改良が日進月歩のインプラントの特徴を熟知したうえで、それぞれの特性を生かした選択を行っています。

3. 必要に応じた即時修復インプラント: インプラントを顎の骨に埋めてから人工的な歯を修復するまで、通常は数カ月間を要します。しかしながらインプラントの埋め込み手術と同時に、白い歯を修復する

ことが可能と診断された場合には、術前に十分な準備をしたうえで、埋め込み手術と歯の修復を同時に行っています。手術直後から審美性や咀嚼機能が回復するので、患者さんに非常に喜ばれます。

4. 難症例に対するチーム診療: 広範囲に顎骨を失い、顎の骨の再建が必要な場合は、口腔外科、形成外科や矯正歯科とチームを組んだ集約的治療を行い、大学病院ならではのインプラント治療を行っています。治療後はQOLが格段に改善するために、患者さんは非常に満足されます。

ところで昭和大学の建学の精神に、“至誠一貫(真心をもって患者さんに尽くす)”という言葉があります。私共のインプラント歯科では、“Heart、Art and Science”をいつも心掛けて、診療にあたっています。Heartとは患者さんを思いやる優しい真摯な心と、医療従事者としてのプロフェッショナルの魂です。Art は芸術性に富む匠の技の修練と、高度な最新技術の習得です。Scienceは普遍的な歯科医学に基づく治療学と、最新の歯科医学の探究です。この3つはインプラント治療に不可欠なものであり、インプラント歯科のスタッフは皆、患者さんの喜ぶ笑顔を自分達の楽しみとして、真心をもって患者さんの診療にあたっています。

歯をなくされてお困りの方で、インプラントによる修復処置を御希望される方や、既にお口の中に入っているインプラントにお悩みのある方は、どうかお気軽にインプラント歯科外来(3階)へお越し下さい。心からお待ちしています。

インプラント歯科 科長 尾関 雅彦



皆さん、朝起きてから歯ブラシを使って歯磨きをされたと思いますが、歯ブラシのことは意外にご存知ではないと思います。いつ頃から歯を磨くようになったのか？については、最も古い記録では紀元前1500年頃のエジプトのパピルスにあるものと言われます。日本では、6世紀に仏教伝来と共に伝えられた「しぼく歯木じょうし」で、仏教では楊枝による浄歯という儀式があることから、歯や舌を清掃するという習慣が僧や仏教徒から一般庶民に広がったと考えられます。なお、歯木は房楊枝として大正の頃まで使われました。現在のような歯ブラシは、明治時代に西洋文化と共に日本に流入したと言われ、製造・販売されるようになりました

では、どのような歯ブラシを使用するのがよいのか？ということに関心が向けられると思います。現在では手用歯ブラシだけでなく電動歯ブラシもあり、選択の範囲は非常に広いです。しかし、老若男女を問わずに「よい歯ブラシ」というものは残念ながらありません。最近、日本ではコンパクトヘッドという小さめの歯ブラシが流行りですが、この歯ブラシが万人に合う訳ではありません。歯並びだけでなく、歯の大きさや長さ、お口の大きさは人それぞれ異なるため、それぞれに合った歯ブラシを選ぶ必要があります。しかし、(1)自分のお口に合った適切なブラッシング技術を身に付けること⇒汚れに直接ブラシの毛先が届いていること (2)毛先が開いたものは交換する (3)毛先が摩耗するとプラーク除去効率が低下するため、毛先が開いていなくても1ヶ月を目安に交換する (4)使用後はよく洗い、乾燥させたものを使用する は、どなたにでも共通する重要なことですので、忘れないで下さい。

ブラッシングの“コツ”は、凹んだところの攻略！



基本はコンパクトで正確に



使いやすいタイプを捜す



ヘッド幅の狭いハブラシヘッド幅が、日本では主流です。上手く使えないと、こんなこともあります。



歯が長い場合は幅広のブラシが便利です

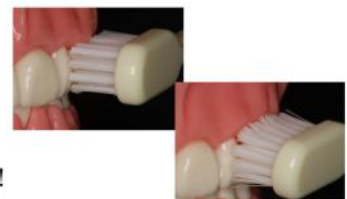


毛先がひらくと効率が落ちます！

× ○



毛先がひらいたら、汚れは落ちにくい。早めの交換を！



テーパー歯ブラシ毛が流行っていますが歯ブラシ毛の劣化にご注意下さい

毛先が針状のものは、先端がカールしやすい



第3回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が開催されました

11月20日に、第3回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が昭和大学病院にて開催されました。この講習会は本ケアセンター城南地域連携協議会を中核として、医科歯科連携のチーム医療の促進を目指して周術期口腔機能管理に係る地域連携に必要な知識の習得を目的として行われています。今回は、昭和大学血液内科の齋藤文護講師に講演をお願いし、歯科と血液疾患の関連や異食に関わる知識を解説していただきました。

外科処置の多い歯科では出血傾向に注意する場面が多く、血小板数や抗血小板薬の服薬について把握する必要があります。厚生労働省の指針では、骨髄穿刺や抜歯など局所の止血が容易な処置では血小板数は1~2万/ul程度で安全に施行できるとされています。そのため、処置の際は血液検査の結果に加えて、既往歴や家族歴、服薬などの情報を事前に把握することが大切になります。

また、近年は骨修飾薬と骨髄炎、骨壊死(BRONJ)と歯科との関連が注目されており、多発性骨髄腫などの治療薬によって発症します。しかし、加療前の口腔衛生状態の改善によって発症率を約1/3に抑えることができるとの報告があることから、医科歯科、あるいは地域での連携によって血液疾患の治療の副作用を軽減することができます。その他にも、化学療法を受けている場合は口腔粘膜炎が生じる場合が多く、その予防には加療前の歯科受診と口腔衛生状態の改善および継続的な口腔管理が重要になります。化学療法中の患者さんが来院された場合も基本的には通常の歯科診療で

問題ありませんが、その病名、直近の化学療法の時期、血液データなどを把握することが大切です。主治医や病院の医療連携室を通じて病態の把握を行うことが重要です。

このように、血液疾患の患者さんや化学療法を受けている患者さんでは、病態の把握や早期からの口腔衛生状態によって治療の副作用や口腔内の病変を軽減させることができますので、患者さんのQOLの向上に寄与にもつながると言えます。

次回の講習会は平成26年2月12日に、食道がんなどの消化器外科疾患についての講演を予定しております。

口腔ケアセンター 講師 大岡 貴史



口腔ケアセンター 弘中 祥司センター長



昭和大学病院 血液内科 齋藤 文護講師

編集後記

「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」が6月に世界文化遺産に登録されたのに引き続き、『和食 日本人の伝統的な食文化』が12月5日にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

農林水産省の無形文化遺産『和食』のパンフレットではその特徴として①多様で新鮮な食材と素材の味わいを活用 ②バランスがよく、健康的な食生活 ③自然の美しさの表現 ④年中行事との関わりを挙げています。

皆様、この世界に誇る食文化を十二分に堪能するために、歯とお口のケアを忘れることなく、良いお年をお迎えください。

(K.T)

